



<会場入り口>

<会場風景>

会 場	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場メインホール
研究課題	効果的に広報活動を行うための工夫 ～PTA 活動の魅力や楽しさを伝えよう～
基調講演	臼井 真氏 神戸市立高羽小学校主幹教諭 「歌の力を信じて～阪神・淡路大震災から 24 年」
実践発表	城田 知志（ともゆき）氏（洲本市立洲本第三小学校 PTA 顧問） 魅力ある PTA 活動をどう伝えるか？ ～広報誌は小学校・家庭・地域を繋ぐ夢の懸け橋～
コーディネーター	廣岡 徹氏（兵庫教育大学教職大学院元教授）
パネリスト	臼井 真氏（基調講演者） 城田 知志氏（実践発表者） 山本 哲也氏（淡路市立志築小学校校長） 山崎 整（ただし）氏（神戸市立博物館副館長・元神戸新聞編集・解説委員）

歓迎アトラクションでは、淡路國生み創生神楽文化振興協議會「国生み創生神楽」4 歳から大人までの 20 数名による演技が行われました。伝統の重みを感じられ、おもてなしの気持ちが伝わってきました。

臼井真氏による基調講演会では、阪神・淡路大震災でのわずかな数分の差で九死に一生を得た生々しい体験談から、震災から 10 年後に「しあわせを運ぶ合唱団」を発足した経緯についてお話しされました。音楽教師として、作詞・作曲を震災前に 150 曲、震災後「しあわせを運ぶ合唱団」発足し、現在オリジナル曲は 400 を超えた。神戸・兵庫県は宝塚歌劇団はじめ、音楽が盛んな土地柄であり、震災と相まって、「音楽は時間の壁を超えていく」・「心を解放して泣くことができる」という信念から、震災への思いを子どもたちの歌声で全国に発信している。「しあわせ運べるように」という曲は、「生まれ変わっても」という言葉や、「神戸」という歌詞が何度も出てくる曲で、新潟・東日本、熊本などの被災地では「神戸」をそれぞれの地名に変えて歌い継がれるようになった。今後も子どもたちの「天使の歌声」で、被災地への励ましや、遺族の方々の悲しみに寄り添える子どもたちへの支援活動を行っていく。との映像を交えた涙を堪えることのできない講演でした。

城田知志氏の実践発表では、「広報誌とは、子どもたちが主役であり、人と人をつなぐ夢の架け橋！」であるというテーマで関西人特有のユーモアを交えながらお話しいただきました。時代の流れ・歴史の重み・大切さや、PTA 役員の負担軽減のポイントについて発表があり、石川県の広報誌コンクールとの共通点も感じながら、素晴らしい活動だなと感心しました。

パネルディスカッションでは様々な角度から、広報活動についての見方、考え方を学ぶことができました。特に、志筑小学校山本校長の、『広報活動とは広報誌だけではなく、日頃のあいさつ運動でも本気で取り組めば、想いや願いを心に響かせることができ、それも広報活動である。』という意見が印象に残りました。城田氏の具体例や、山崎氏の報道のプロの観点からの専門的なお話は、時間がいくらあっても足りないくらいでした。

最後に、臼井先生の指揮による「しあわせ運べるように」を会場全員で合唱し、閉会となりました。今回の講演、実践発表などを通じて、学びあい、魅力ある学校・地域にするための PTA 広報活動のありかた、気付きを得ることができ、大変有意義な場となりました。